

●日本社会事業大学 社会福祉学研究科社会福祉学専攻  
「福祉サービスのプログラム評価研究者育成」の事例 <人社系>

**具体的に何を実施したのか**

近年社会福祉学領域において、特に強く求められる福祉プログラム評価研究者を、日本社会を含むアジア型福祉社会の創造に貢献できる人材養成の一環として、人材養成目的に沿った社会福祉実践の向上や発展に貢献できる実践研究者の育成を目的に、従来の専門領域の講義や論文指導科目に、新たに研究方法論科目やプログラム評価総論・各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、アジア社会福祉研究、専門英語の科目を加えたカリキュラム改革を行うとともに、福祉プログラム評価研究者養成を大学院教育における履修コースとして構築した。

**実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと**

福祉プログラム評価研究者養成のために、福祉プログラムに係る科目については、評価研究で著名な講師陣を集め、事前に履修コースとコースのキャリアパス構想について説明し、意見交換を行いながら綿密な授業の進め方を調整し、各科目のすみ分けを行うよう配慮した。

**どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか**

従来の専門領域の講義や論文指導科目に、新たに研究方法論科目やプログラム評価総論・各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、アジア社会福祉研究、専門英語の科目を充実させたことで、院生の福祉プログラム評価への理解が促進されるとともに、学んだ研究方法の中から各院生の研究テーマに合う手法を選択し、論文の枠組みとして取り入れることが多くなった。なお、これらの科目は、本プログラム終了後も継続的に開講できるようになった。

●日本社会事業大学 社会福祉学研究科社会福祉学専攻  
「福祉サービスのプログラム評価研究者育成」の事例 <人社系>

**具体的に何を実施したのか**

評価研究教育コーディネーター1名を採用して新設した院生の評価実習科目を支援するとともに、博士後期課程の4名をTA・RAとして採用し、コーディネーターとともに福祉プログラム評価研究プロジェクトに係わり、博士前期課程生の論文作成支援を推進した。また、院生が論文作成に必要な機器やコンピューターソフトの整備、文献データベースを導入し、福祉領域の海外文献をより入手しやすくした。

**実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと**

福祉プログラム評価研究者養成のために、福祉プログラムに係る新設科目における講師陣との調整や院生の実習の進め方について助言する役割のコーディネーターやTA・RAを集めた打ち合わせを行うなどして、進捗確認を行うことで院生への助言方法を共有することができた。また、物理的支援となる機器等については多くの見積もり比較をするなどしてより安価な方法により取得した。

**どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか**

評価研究教育コーディネーターや博士後期課程をTAやRAとして採用したことで、博士前期課程生からの、論文作成に至るまでの相談が増えるとともに、院生が導入した機器を活用し、調査データの分析や先行研究における海外文献の検索数が年々増加した。

●日本社会事業大学 社会福祉学研究科社会福祉学専攻  
「福祉サービスのプログラム評価研究者育成」の事例 <人社系>

**具体的に何を実施したのか**

米国・中国・韓国よりプログラム評価に精通する研究・教育者を招聘し、プログラム評価に係わる特別講義を行った。同時に、福祉プログラム評価教育国際セミナー「福祉系大学大学院における福祉プログラム評価者・研究者の育成教育のあり方へ力量ある『上級ソーシャルワーカー』育成に向けた評価教育ガイドライン作成のために」を、福祉系大学教員ほか関係者を集めて開催した。この国際セミナーでは、福祉プログラム評価のアプローチ法を用いて社会福祉実践の向上や発展に貢献できる、力量ある上級ソーシャルワーカー、実践研究者や研究的視点をもつ実践家の育成の方法を議論し、福祉系大学院におけるプログラム評価教育ガイドラインを作成した。

**実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと**

福祉プログラム評価に関心のある方の出席を鑑み、福祉系大学院や関係団体等にセミナーの案内とともに本プログラムの概要も案内することで、趣旨を理解してセミナーに参加していただくように試みた。

また、米国、中国、韓国から福祉プログラム評価に精通する講師陣を招聘し、国際セミナーに加えて、本学の大学院教育と今後の方向性について検討する機会を設けたことや、セミナー終了後も継続的に集中的な討議を電子メールにより行い「福祉系大学院におけるプログラム評価教育ガイドライン」としてまとめ日英両国語版で作成し、インターネット等により世界中に周知を図るようにした。

**どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか**

特に福祉系大学院や関係団体等に案内したことで、福祉プログラム評価に関心のある方が多く出席し、多くの方より具体的な示唆や取組について満足した内容だったとの意見があり、福祉プログラム評価について周知を図ることができた。また、福祉プログラム評価のアプローチ法を用いて社会福祉実践の向上や発展に貢献できる、福祉プログラム評価研究者（含、力量ある上級ソーシャルワーカー、研究的視点をもつ実践家）の育成方法について、「福祉系大学院におけるプログラム評価教育ガイドライン」としてまとめ日英両国語版で作成し広く周知を図ったことで、福祉プログラム評価教育について関心をよせる受験者が増加した。